

令和6年度 研究授業
英 語 科 学 習 指 導 案

令和6年12月11日(水)・3校時

【授業者】 兒玉 大弥

【单元・題材】 Stage Activity 3 Let's Have a Mini Debate

【学年・組】 3年2組

【場所】 1 階英語教室

三原市立第五中学校

3 年 2 組 英語科学習指導案

【指導者】 兒玉大弥 【単元名】 Stage Activity 3

単元観について

本単元は、中学校学習指導要領（平成 29 年公示）「(5) 書くこと」で以下の内容を身につけることをねらいとしている。

ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

本単元では、聞いたり読んだりしたことを基に、その内容に関する自分の意見や感想などを書く力を身に付けさせることを目標としている。

「社会的な話題」とは、社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のことであり、広く国内外で起こっている事象で、多様な考え方ができるものを取り上げる。

「考えたことや感じたこと、その理由など」を「書く」とは、「聞いたり読んだりしたこと」の要点を捉え、自分が考えたことや感じたことを、その理由を交えて書くことができることを意味している。

そして、様々な題材の英文を扱うことで、聞いたり読んだりしたことの内容を理解するだけでなく、その内容に関して自分の意見や感想をもち、その内容をまとめて書くことを示している。

生徒観について

本学級の生徒は、素直で真面目な生徒が多く、英語の授業に意欲的に参加する生徒が多くいる。その一方で、自分の意見を言うのが苦手、恥ずかしいという生徒もあり、表現を活動とした授業では活発的に参加できない生徒もいる。

本学級の生徒に実施したアンケートによると、「英語が好きですか」という質問に対して、約 70%の生徒が肯定的に回答しているが、「英語のどのような活動が苦手ですか」という質問に対して、約 86%の生徒が「書くこと」と回答している。また、「英語のどのような力を伸ばしたいですか」という質問に対して、約 76%の生徒が「書くこと」と回答しており、書く力を伸ばしたい生徒が多いと分かった。

指導観について

本単元の指導にあたっては、次の 2 点に重点を置く。

1 点目は、「基礎学力の定着」である。生徒の現状から、これまでの英語科の授業では知識の習得に留まっていることやその知識を継続的に活用する活動が行われていないことが指導上の課題と考えた。授業では、常に既習事項の確認をしながら指導を進めていきたい。一問一答のように単語の意味の確認だけでなく、どのような場面で文法が使われるのか課題設定を意識していく。文法問題に対する苦手意識を取り除くことができるように説明を丁寧に行い、具体的な場面と結び付けていきたい。

2 点目は、「読み手にとって分かりやすい文章構成」である。討論では、賛成・反対を明確にして、理由を述べる。その際、I think や I agree などの表現を用いて 賛否や自分の意見を述べ、because や so などの接続詞を用いて自分の意見や主張とその理由や根拠の関係を明確にしたい。また、論点の順序付けでは、first や second などの副詞を用いて内容を整理していく。このように、論点を明らかにしたり、順序付けを行ったりすることにより、読み手にとって読みやすく分かりやすい文章が書ける力を育成していく。

単元目標

Unit 6 までの学習事項を用いて、ある論題について賛成・反対の立場を決めて、主張とその理由を明確にしながら、意見を伝え合う技能を身につけることができる。【知識・技能】

○物事を論理的・多面的に考えて説得力のある主張ができるようになるために、社会的な話題について書かれた文章を参考に、賛成・反対の立場を決めてグループでディベートを行い、論点に沿った主張をしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①Unit 6 までの学習事項を用いた文の形・意味・用法を理解している。	①物事を論理的・多面的に考えて説得力のある主張ができるようになるために、社会的な話題について書かれた文章を参考に、賛成・反対の立場を決めてグループでディベートを行い、論点に沿った主張をしている。	①物事を論理的・多面的に考えて説得力のある主張ができるようになるために、社会的な話題について書かれた文章を参考に、賛成・反対の立場を決めてグループでディベートを行い、論点に沿った主張をしようとしている。
②Unit 6 までの学習事項を用いて、ある論題について賛成・反対の立場を決めて、主張とその理由を明確にしながら、意見を伝え合う技能を身につけている。		

(2) 單元指導計畫 (全4時間)

次	学習内容	時間	評価規準	評価の観点			評価の方法
				知 技	思 判 表	主 学 態	
1	パフォーマンス課題の設定	1	知①Unit 6 までの学習事項を用いた文の形・意味・用法を理解している。	○			ワークシート 行動観察 振り返りシート
	○ディベートで使える表現を理解する。 ・構成「意見→理由→例」が「相手にとって分かりやすい」ことを押さえる。 ○三原市の良さ・課題を理解する。						
	単元を貫く問い：読み手にとって分かりやすい文章を書くには、どうしたらよいだろう。						

2	○ミニディベートの準備をする。 (本時 1 / 2)	2	知②Unit 6 までの学習事項を用いて、ある論題について賛成・反対の立場を決めて、主張とその理由を明確にしながら、意見を伝え合う技能を身につけている。 思①物事を論理的・多面的に考えて説得力のある主張ができるようになるために、社会的な話題について書かれた文章を参考に、賛成・反対の立場を決めてグループでディベートを行い、論点に沿った主張をしている。	○	◎	ワークシート 行動観察 振り返りシート Google スライド
3	○ミニディベートを行う。	1	思①物事を論理的・多面的に考えて説得力のある主張ができるようになるために、社会的な話題について書かれた文章を参考に、賛成・反対の立場を決めてグループでディベートを行い、論点に沿った主張をしている。 主①物事を論理的・多面的に考えて説得力のある主張ができるようになるために、社会的な話題について書かれた文章を参考に、賛成・反対の立場を決めてグループでディベートを行い、論点に沿った主張をしようとしている。	○	◎	ワークシート 行動観察 振り返りシート Google スライド

本時の学習

(1) 本時の目標

相手にとって分かりやすい表現を使い、ディベートの原稿を作ることができる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
1 既習事項の確認をする。（前時の振り返りをする。）【5分】		
○本時の学習内容を前時と結び付けて確認する。 【ICT】	○ディベートで使える表現・構成を適切に覚えているか確認させる。	
	ICTの活用① モニターを使って、ディベートで使える表現を無作為に提示し、構成を意識させる。	
○高校入試、英検との関連性を確認する。	○英作文の構成を意識することで、高校入試、英検に活用できることを確認させる。	
2 本時のめあてを確認し、課題を発見・共有する。【5分】		
○めあてを書く。 課題の設定	○これまでの三原市の資料をもとに、「三原市は住みやすい街か」という論題に対して、賛成・反対から原稿を作成することを提示・確認する。 ○2時間でプラン作成、1時間で発表する見通しを持たせる。	
[めあて] 相手にとって分かりやすい表現を使い、ディベートの原稿を作ることができる。		
3 本時の課題解決に向けて考える。【30分】		
情報の収集 整理・分析 ○アンバー先生の意見を把握し、三原市の良さ・課題を多角的に捉える。 （個人思考）	○スプレッドシートにあるクラスの意見とアンバー先生の意見を比較し、課題を捉えさせる。 ○アンバー先生が話した script を提示し、構成を確認させる。	
	ICTの活用② Google スプレッドシートから集約された情報を分析させる。	
○Scriptを確認し、三原市の良さ・課題を整理する。 （班思考）	○主要なキーワードにアンダーラインをひかせる。 ○どの情報が意見・理由・例になるのか、分析させる。	○主要なキーワードを整理・分析し、賛成側・反対側に情報をまとめている。 （ワークシート）

○賛成側・反対側に分かれて原稿を考える。 (班思考)	○構成を意識して、意見・理由・例の順番に文章を整理させる。 「意見を述べる」 I think that… 「理由を述べる」 I have three reasons. First, … Second, … Third, … 「例を述べる」 For example, … Let give you an example.	○キーワードをもとに、意見・理由・例の順番に文章を整理し、構成を意識して原稿を作成しようとしている。 (ワークシート、行動観察)
ICTの活用③ Google スライドを活用して論理的に情報を組み立てさせる。		
4 本時の学習を振り返る。【10 分】		
まとめ・振り返り ○次時に何をすべきか確認する。 ○振り返りシートに記入する。	○次時は、ディベートの原稿を完成させることを伝える。 ○原稿を完成させるためにどのような計画で取り組むか班内で確認させる。 ○「R80」で「①本時でわかったこと」「②次の授業に生かしたいこと」を記入させる。	
【振り返りの例】 ・わかりやすい文章を書くためには、段落構成・展開を意識することが分かった。従って、次の時間では Introduction・Body・Conclusion を区別し、主張→理由というような文章を組み立てていきたい。(80 字)		

(3) 板書計画

GOAL	相手にとって分かりやすい表現を使い、ディベートの原稿を作ることができる。		
Wednesday	①意見を述べる		
December 11	We think that...		
☀	②理由を述べる		
	I have three reasons. First,... Second,... Third,...	抽象	
	③例を述べる	↓	
	For example,...	具体	